

箸折峠の牛馬童子像頭部の発見について

【発見・届出の状況】

- 1, 発見日時 平成22年8月16日（月） 午後3時30分ごろ
- 2, 発見場所 田辺市鮎川940番地
明光・龍神バス 鮎川温泉バス停留所（田辺方面行き）ベンチ上
- 3, 発見者 田辺市鮎川地内在住の中学生
- 4, 届出日時 平成22年8月16日（月） 午後4時10分ごろ
- 5, 届出場所 田辺警察署鮎川警察官駐在所
- 6, 届出者 発見者の父親
- 7, 届出内容 発見者父親の男性が訪れ、在所中の勤務員に対して、「子どもが鮎川温泉バス停のベンチに地蔵さんの頭が置いていたと言っている。2年前に牛馬童子の頭が壊されたが、その頭ではないか。」と言って立ち去ったもの。
- 8, 確認状況 鮎川温泉バス停留所（田辺方面行き）ベンチ上に、平成20年6月18日に損壊を受けた牛馬童子像頭部が裸で置かれていた。
バス停は、鮎川温泉の開業とともに設置していたが、同温泉はすでに閉鎖され、同バス停を利用する客はほとんどない状態である。
発見者は、8月初めごろに同所付近の富田川で遊泳し立ち寄っているが、そのときは何もなかったと説明した。

【これまでの経過の概要】

平成22.8.16（月）

田辺市鮎川の鮎川温泉バス停留所（田辺方面行き）待合所ベンチに牛馬童子像頭部に似た石造物が置かれているのを地元中学生が発見し、中学性の父親が通報。鮎川・栗栖川両駐在所員が現地に急行。中辺路行政局・中辺路教育事務所を通じて栗栖川駐在所員から連絡（16時30分ごろ）を受けた文化振興課長、同文化財係長が両駐在所員とともに現場で、当該石造物が損壊された牛馬童子像頭部の可能性が高いことを確認し（17時10分ごろ）、その後、田辺警察署刑事課の係官により現場検証、当該石造物を遺留品として押収した（17時50分ごろ）。

平成22.8.19（木）

田辺市教育委員会において、写真と照合した結果、損壊された牛馬童子像頭部と確認した。

【損壊事件の概要】

平成20年6月18日、世界遺産に登録されている和歌山県田辺市中辺路町の史跡「熊野参詣道」内にある牛馬童子と呼ばれる石像（幅20cm、奥行き42cm、高さ56cm）の頭部（幅6.9cm、奥行8.1cm、高さ8.8cm）が損壊された状態で発見されたもの。

【箸折峠の牛馬童子】

所在地 和歌山県田辺市中辺路町近露字津毛川2430の39

指定の名称 国指定史跡熊野参詣道（牛馬童子）、市指定史跡箸折峠の牛馬童子
指定年月日 平成12年11月2日（国指定）
昭和46年7月26日（市指定）
指定面積 141.8㎡（実測面積、国指定）
世界遺産登録 国指定史跡熊野参詣道は、平成16年7月7日に世界遺産として登録された。

【損壊事件から修復までの経過の概要】

- 20.6.18（水） 13時30分～16時30分の間に石像が損壊されたと思われる
- 20.6.19（木） 市長、教育長、教育次長が現場確認
県文化遺産課等関係機関に報告
中辺路行政局職員、文化振興課職員、地元語り部団体が現場周辺を
搜索
近野振興会から所管署である近野駐在所に被害届を提出
- 20.6.21（土） 市職員等（地域住民、関係団体）約200名で一斉搜索を実施
- 20.6.24（火） 近野振興会から毀損届（文化財保護法第120条に基づく）が提出
- 20.6.26（木） 県文化遺産課小田班長、黒石主査が現場確認
- 20.7.4（金） 文化庁佐藤主任調査官が箸折峠の視察にあわせて、牛馬童子損壊
箇所を現地視察
- 20.7.16（水） 文化財保護法違反事件として、田辺市長 真砂充敏 名で田辺警
察署に告訴
- 20.8.7（木） 文化庁本中主任調査官が牛馬童子損壊箇所を現地視察
- 20.8.29（金） 牛馬童子の復元方法について、市長が記者会見
- 20.9.4（木） 牛馬童子の復元作業開始（現地での残存部型取り作業）
- 20.10.3（金） 牛馬童子の復元作業完了（現地での頭部取り付け作業）
（復元に要した費用 945,000円）
- 20.10.7（火） 牛馬童子復元部の顔料補彩作業